

9.5(京都)

光に託す被災地への思い



大阪市で開かれた教室で、ウサギをかたどった作品をつくる子どもたち(旧大津公会堂)

17日から大津市内で開催される「大津まちなか食と灯りの祭(食灯祭)」で、東日本大震災の被災地・福島県郡山市の子どもの作った「灯り」が大津市の児童たちの作品と一緒に展示される。子どもたちの個性を生かした約40個の作品が「共演」する。

福島・大津 児童作品一緒に

「灯り」は、針金でかたどった動物や昆虫などの表面に和紙を貼り、内側に電球を入れたもの。柔らかな光を放つのが特徴で、照明作家の橋田裕司さん(58)が大阪市東淀川区で約15年前から、大津市など全国で教室を開いている。

17日から大津「食灯祭」で展示

8月6日に郡山市で開かれた教室には、児童を含め約25人が参加。福島第1原発事故で屋外で遊べない子どもたちは、教室で開かれた「食灯祭」で展示される。橋田さんのファンだった同市職員が依頼し、教室が開かれた。橋田さんと食灯祭の福井美知子委員長が話し合い、郡山と大津の児童たちの作品が合同展示することになった。



手作りした作品を手に笑顔を見せる郡山市の子どもたち

23日には大津市の旧大津公会堂で教室が開かれ、親子連れら23人が参加した。大津市長等小4年の奥山結布花さん(9)は「東北の子どもたちが元気になってほしいと思いつながりを作りました」と合同展示を心待ちにしていた。

作品には、東北の子どもたちへの激励や作品への思い入れなどを書いたメッセージカードが添えられる。橋田さんは「灯りをきつかけにして人がつながる。食灯祭では、作品に表れる子どもたちの表情を見てほしい」と話している。(田代真也)

9.17(中日)

9.17(産経)

手作りあんどんで中心部を彩る催し「大津まちなか食と灯りの祭(食灯祭)」が17日から、大津市の中心市街地一帯で始まる。今年は、大津の歴史文化を題材にしたあんどんで六十三基に加え、福島県の子どもたちが作った照明展示「げんき印の灯り」も同時開催する。

灯りウオーークは、十島郡郡山市の子ども七日から市内で始まる。あんどんで作られた照明三十四基も展示する。作品には「外で思いっきり遊びたい」、「いろいろなことでも頑張りたい」と互いにメッセージを添え、大津から被災地の元気を届けようという願いを込めている。

「げんき印の灯り」の展示は十月十日まで、「灯りウオーーク」は十月三十一日まで。(滝田健司)



大津市と福島県郡山市の子どもたちが手作りした照明＝大津市の旧大津公会堂で



「食と灯りの祭」大津でぎょうから大津市中心市街を幻想的な明かりで包み込む恒例の「大津まちなか食と灯りの祭」が17日から始まる。本番に先立ち、大津市浜大津の旧大津公会堂前で試験点灯が行われ、写真、淡い光

まちを光で彩る。まつりはオータム・シーズンの今月17日から10月31日と、クリスマス・シーズンの12月1日から25日まで。期間中は日没ごろから午後10時まで、大津市の寺町通りや丸屋町商店街に市民が和紙などで手作りした63個の明かりが飾られるほか、琵琶湖に15基のイルミネーションが浮かぶなど、まちが光に彩られる。

試験点灯では、市民手作りの明かり13個が、本番と同様に旧大津公会堂前で幻想的な輝きをみせた。明かりには「鬼の念仏」や「藤娘」などの絵が描かれ、点灯すると、暗闇の中に浮かび、道行く人が足を止めて見入っていた。

9.17(京都)

「食と灯りの祭」大津でぎょうから大津市中心市街を幻想的な明かりで包み込む恒例の「大津まちなか食と灯りの祭」が17日から始まる。本番に先立ち、大津市浜大津の旧大津公会堂前で試験点灯が行われ、写真、淡い光

「食と灯りの祭」大津でぎょうから大津市中心市街を幻想的な明かりで包み込む恒例の「大津まちなか食と灯りの祭」が17日から始まる。本番に先立ち、大津市浜大津の旧大津公会堂前で試験点灯が行われ、写真、淡い光

「食と灯りの祭」大津でぎょうから大津市中心市街を幻想的な明かりで包み込む恒例の「大津まちなか食と灯りの祭」が17日から始まる。本番に先立ち、大津市浜大津の旧大津公会堂前で試験点灯が行われ、写真、淡い光

光の木立 湖都に彩り 大津・「食と灯りの祭」

H23 9.18 京都



琵琶湖沿いにイルミネーションで彩られたなぎさ公園(17日午後6時30分、大津市島の関) 撮影・木原貞男

イルミネーションで市街地一帯を彩る「大津まちなか食と灯りの祭2011」(同実行委主催)が17日夜、始まった。大津市のなぎさ公園で点灯式があり、家族連れが光の演出を楽しんだ。中心市街地の活性化を目的に実施し、今年で5年目

となる。イルミネーションはJR大津駅前からなぎさ公園一帯までの約2キロ。円すい型のツリーや果実の形などを通りや湖上に飾った。午後6時からの点灯式では、カウントダウンで一斉に光がともると、集まった市民から大きな拍手が起こった。点灯は10月31日までと12月1日、25日、日没から午後10時まで。今回は節電や省エネで11月のイルミネーションを控えるほか、一部の電飾にLED(発光ダイオード)や太陽光パネルを使用。また東日本大震災の被災地、福島県郡山市の子どもが作った灯りを旧大津公会堂で展示している。期間中、さまざまな食のイベントやコンサートが開かれる。(寺内 蘭)

「大津 音楽祭」開幕 11月5日まで

びわ湖ホールとその周辺の市街を舞台に、コンサートやオペラを中心とした催しが開かれる「びわ湖大津 秋の音楽祭」が17日始まった。ほかにも11月5日まで、食歩きや市街のライトアップ、フリーマーケットなど計78の催しが連日開かれる。

今年、東日本大震災を受け、

「復興の音・びわ湖から届ける音のエル」と題するイベントで幕を開けた。会場のなぎさ公園ではチャリティーコンサートがあり、福島の特産品を販売する露店も並んだ。フラダンスの愛好者グループ約10

食歩きやライトアップなど78の催し

団体による舞台や、琵琶湖岸からJR大津駅前までの約1.5キロをイルミネーションや大津絵を描いた行灯で照らす「灯りウォーク」があり、芸術の秋を満喫しようとする人々に喜ばれた。今後の催しの予定は、びわ湖ホールのホームページ(<http://www.biwako-hall.or.jp/festival/autumn2011/index.html>)。

大津市中心部 光の競演



福島県郡山市の児童らが作った灯りのオブジェ(大津市の旧大津公会堂で)

*「まちなか食と灯りの祭」開幕

食と灯りで大津市の中心市街地を活性化させる催し「大津まちなか食と灯りの祭2011」が17日、市中心部一帯で始まった。10月末までと12月1、25日に、街中のイルミネーションが点灯され、食歩きツアーなども行われる。

市民団体や企業などでつくる実行委が、2007年から毎年実施。今年、東日本大震災の被災地、福島県郡山市の児童らが作った灯りのオブジェ(大津市の旧大津公会堂で)を展示。節電などのため、11月の点灯を中止とした。発光ダイオード(LED)の電球を使ったオブジェやイルミネーションなどが道路沿いやなぎさ公園おまつり広場に飾られ、午後6時過ぎに点灯されると、家族連れらが見入っていた。

「びわ湖大津 秋の音楽祭」も17日始まり、同広場で「復興の音・びわ湖から届ける音のエル」と題したコンサートが行われた。会場では、福島県産の野菜などを販売、被災地への義援金も募った。びわ湖ホール(打出浜)などで11月5日まで、オペラなど34公演やフリーマーケットなどの催しが行われる。

9.20(毎日)

街再生心も明るく

とや

福島の児童も出品「食と灯りの祭」

大津 大津市中 心市街地の
にぎわいを再生するイ
ベント「大津まちなか
食と灯りの祭201
1」(実行委主催)が



福島県郡山市の児童らが制作したオブジェ
|| 大津市浜大津1の旧大津公会堂で

始まった。JR大津駅
前やなぎさ公園などに
はイルミネーションが
点灯され、関連イベン
トが催される。
大津市浜大津1の旧

大津公会堂では福島県
郡山市の児童らが制作
した明かりのオブジェ
40点を展示。針金と和
紙で作った恐竜やてん
とう虫、犬などが照ら
し出され、幻想的な雰
囲気を醸し出してい
る。同市の会社員、座
波まどかさん(26)は
「どれも温かい感じが
する。この照明のよう
に、被災地の子どもの
心も明るくなれば」と
話した。

同公会堂の展示は
10月10日まで。午前10
時〜午後9時。入場無
料。イルミネーション
は10月末までと12月
1〜25日。節電対策で
11月は中止する。祭り
の問い合わせは実行委
(077・528・2
501)。

【加藤明子】

9.25(中日)

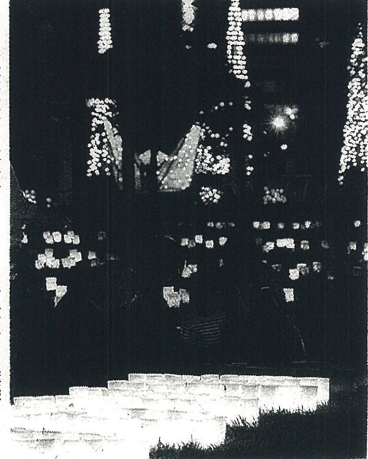
光に集い人々明るく

幻想的なあかりで
包まれた浜大津湖
岸緑地帯=いずれも
大津市浜大津で



明かりを使ったイベ
ントで地域おこしをし
ている団体が集まる
「第五回全国あかりサ
ミット」が二十四日、
大津市浜大津の市旧大
津公会堂であった。サ
ミットに合わせ、各地
のイベントで飾られて
いる明かりが、同市浜
大津五の天津港周辺で
灯されている。二十五
日まで。

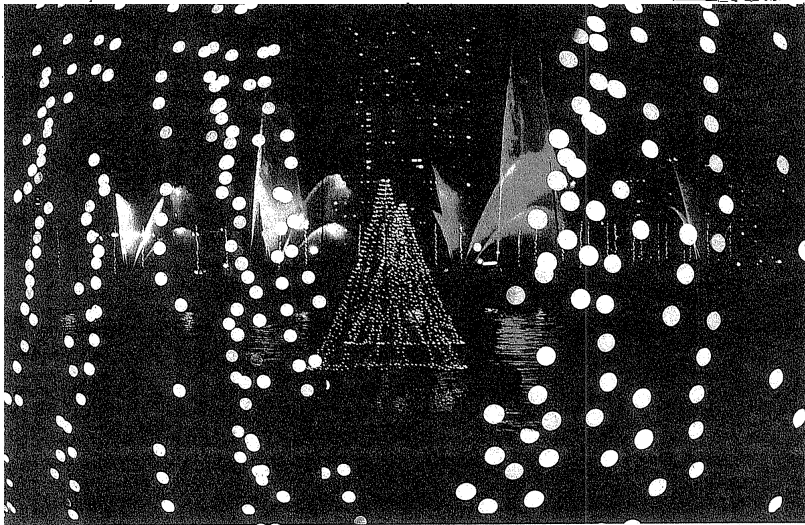
の山崎亮教授(兵庫県
芦屋市)が「人とまち
を元気にするあかり」
では、京都造形芸術大
と題して講演。大阪府



大津で全国あかりサミット

や栃木県の地域づくりに
挑戦した取り組みなど
を紹介し「明かりの
イベントを通じて人と
人とのつながりを作っ
ていってほしい」と呼
び掛けた。この後、二
団体の活動報告とパネ
ル討論があった。
大津港周辺には岩手
県平泉町、福島県郡山
市を含む全国十二団体
の千五百点の明かりア
ートを展示。赤や白の
プラスチックカバーの
中にろうそくをともし
たものや、木の骨組み
を白い紙で包み、明か
りをともした鶴などが
並んだ。訪れた人々
は、写真撮影などをし
ながら幻想的な光を楽
しんでいた。
(山内晴信)

10.14(読売)



◆光画アルバム 四季彩◆

<136>

メルヘン調の光彩

秋の夜長、散策を楽しんで——と大津市で「大津まちなか食と灯りの祭2011」が開かれている。写真教室の撮影地下見としてなぎさ公園に出掛けてみると湖岸沿いにイルミネーション、湖上にアクアツリー、その後方に色とりどりの噴水と、大津港ならではの織演。教材にはうってつけだ。

2年ほど前に別の取材で撮影したことはあるが、この催しも今年で5年目。LED（発光ダイオード）照明を多用するなどエコにも取り組んで

「湖畔の彩り」

いる。イルミネーションは10月末でいったん終え、クリスマスシーズンとして12月1～25日に再点灯されるという。

さて撮影。欲張って各種のイルミネーションやアクアツリー、噴水などをあれこれ入れてみるものの何やら説明的な感じで今ひとつ感動が湧かない。そこで光を遠近でとらえ、メルヘン調に仕上げてみた。

（撮影・大久保勝利、カメラ：ニコンD3、レンズ：80～200ミリ）

12.26(京都)

フルートが奏でるクリスマスソングを楽しむ市民ら
(大津市浜大津1丁目・旧大津公会堂)



「音楽いっぱいのおくりな」をテーマにしたクリスマスコンサートが、大津市浜大津1丁目、旧大津公会堂のホールで開催された。クラシックやゴスペル、ジャズなど多彩なジャンルの音楽が、家族連れら約300人を魅了した。クラシック音楽では、赤い帽子やドレス姿の女性音楽家たちが、フルートやピアノで美しい音色を響かせた。レトロモダンな旧公会堂のホール

音楽あふれるクリスマス 大津

は、クリスマスモードいっぱい包まれ、聴衆は笑顔で音楽に聞き入っていた。
(相見昌範)

10.16(京都)

大津祭のからくりを題材に作られ、柔らかな光を放つ「灯り」
(大津市・浜大津アーカス)＝撮影・木原貞男



にぎわいの残照ほのか

灯り60点展示 京都

大津祭の曳山や、からくりをモチーフにした手作りの「灯り」が大津市の大津港一帯で展示され、祭りの名残を惜しむような柔らかな光を放っている。大津祭は、県庁



近くの天孫神社で16日に行われる「神輿洗い」と奉告祭で1カ月わたる行事を終えるが、灯りは今月末まで展示される。灯りは、針金の基礎の上に和紙を張り付けた60

形四方のミニ「ねぶた」のような形で、市民有志約80人が今年5月から4カ月ほど掛けて製作。市中心部の通り沿いに点在させて置いていたものを、9日の本祭の後に大津港や浜大津アーカスに集めて展示している。

月宮殿山の「鶴亀」、孔明祈水山の「孔明」など13基の曳山で演じられるからくりを題材にした灯りがそろそろほか、藤娘や弁慶など大津絵ゆかりの作品など約60点が並び、主催の大津まちなか食と灯りの祭実行委員会は「作り手一人一人の思いのこもった灯りで祭りの余韻を楽しんで」と呼び掛けている。見学無料。
(三好吉彦)